ふれあいネットワーク

ハートフル通信

令和3年9月1日
第23号

心がいっぱい
朝日町ボランティア
マスコット
ハートフルちゃん

オール朝日町で支える　安心生活のまちづくり（町社協の基本理念）

編集・発行
朝日町社会福祉協議会
富山県下新川郡朝日町泊418
tel.0765-83-0576
fax.0765-83-1589
http://asahiwel.com

“その想いに応えたい”暮らしを支える活動

～日常的な金銭管理のお手伝い!!生活支援員～

社会福祉協議会には、お金が上手につかえない方や、通帳や印鑑などの大事な書類をなくしてしまう方、福祉のサービスの利用方法がわからない方をサポートする**「日常生活自立支援事業」**があります。そして一人の地域住民として、またボランティアとしてその事業に協力してくださる方を**「生活支援員」**と呼んでいます。今号では、朝日町で活躍されている「生活支援員」さんをご紹介します。

人とつながる喜びを

生活支援員として長く活動されている廣川慶子さん

Q　生活支援員になったきっかけを教えてください

A　民生委員を３期務めて退任した時、社協の職員さんから声をかけてもらいました。民生委員の時に「町内の気になる方」のお宅を訪問して、見守りや声かけ、話し相手、時にはお裾分けをしていたので、お話を伺った時も特にためらうことなく引き受けさせてもらいました。

Q　生活支援員として、やりがいや魅力はありますか

A　民生委員の時もそうだったのですが、こちらから声をかけに行っても何も話してくれない方や拒否される方もいました。もちろんそれを否定するつもりはありません。でも少しずつ訪問を重ねていると、徐々にこころを開いてくださり笑顔をみせてくれるようになりました。本当に嬉しかったですね。

この事業の利用者さんとの交流も同じです。

以前、在宅生活をしている、家族と疎遠な高齢者の通帳をお預かりして、本人にお金（生活費）を届けに行っていました。その方は人見知りなところがありましたが、次第に打ち解けて、笑顔をみせ合う関係になりました。ところが認知症の進行によりその方は施設に入所されることになり、お金を届けるために、今度は施設に面会へ行くことになりました。最後の方は私の名前も忘れてしまっている様子でしたが、私が面会に行くと人見知りな方なのに、私の顔を見て必ずニコッと笑顔をみせてくれました。記憶を失いつつあるけど「この人の人生に、私は確かに存在しているんだな」と感じることが出来ました。私もこの方のことは忘れないでしょう。

「人とのつながりによって、自分の人生も豊かになっている」と、この方との出会いで改めて気付けたことは嬉しかったです。

Q　今後の目標など教えてください

A　先に紹介した利用者さんのお宅に行った時、話を伺っていると今後の不安を話されたことがありました。「（頼れる家族もいないから）私が死ぬまで来てくれないか」という訴えでした。出来る範囲でと答えましたが、必要とされていることを嬉しく感じたのを覚えています。その想いには最後まで応えることが出来ました。

そして今も、私のことを必要としてくれる人は少なからずいるので、いつまでも元気でありながら、その人ともいろんな人たちともつながり続けていたいです。また、この事業に協力していくことは、微力な私でも社会の役にたてている、社会ともつながっていることだと思っています。出来る限り続けていきたいです。

自分に出来ることを自然体で

自分らしくありのままに利用者と接する間部由美さん
ご近所の方の相談相手にもなっています

Q　生活支援員になる時どう思いましたか

A　もともと民生委員の経験もあり、地域の公民館事業にも長く携わっていました。また小さいころから弟や妹の面倒を見たり、自分の祖父母や地域の高齢者と過ごすことが日常的だった私にとって、誰かのお世話をしたり、支えたりすることは「あたりまえ」の感覚でした。ですから社協の職員さんに声をかけてもらった時も「私にでも出来るなら、やれることはやろう」と軽い気持ちで引き受けたことを覚えています。他人の通帳を一時的にお預かりもしますが、その管理は社会福祉協議会であって、私自身が行うわけではないことも安心でした。

Q　生活支援員になってみて感じたことを教えてください

A　私自身、人付き合いやボランティアをする時には「無理なくやれる範囲でやろう」と心がけています。この生活支援員になる時も、自分のこころを飾ってしまうと無理をしていることになるので、**「自分らしくありのまま利用者さんに接しよう」**と思っていました。そして「利用者さんに嫌われたらすぐに身を引こう」とも考えていました。だから今の利用者さんには、初めてお会いしてから気付いたことは伝えさせてもらっています。もちろん利用者さんの想いに応えるために、利用者さんの話もしっかりと受け止めていました。

その利用者さんとの付き合いは今年で８年目になるのですが、今は私との交流を楽しみにしてくれており、私がお金を届けに伺うと喜んで迎え入れてくれ、腹を割って話をしてくれます。この生活支援員をやってよかったなーと感じる瞬間です。こころをつくらず接していたから、利用者さんもこころを開いてくれたのかな…と思っています。

Q　今後の目標など教えてください

A　今はこの生活支援員だけではなく、あさひ総合病院を拠点に住民や患者が交流するボランティアグループ「カワセミの会」にも所属させてもらっています。会長やグループの皆さんとの出会いは私の貴重な財産になっています。**この生活支援員もそうですが、ボランティア活動をすると人との出会いが生まれ、自分のこころが広がっていくことを感じます。**人が喜んでいるところを見るのも楽しいです。これからも自分が求められたら出来る範囲でするという考え方で、身体を大切にしながら、私の座右の銘でもある「縁の下の力持ち」でいつまでもあり続けたいです。

生活支援員について関心や質問がございましたら、朝日町社会福祉協議会までお問い合わせください

▶裏面は「コロナ禍における〝生活相談〟の現状」についてです。

この広報紙は共同募金の助成金により発行しています。

コロナ禍における“生活相談”の現状

新型コロナウイルス感染症の蔓延により、わたしたちが大切にしてきた“暮らし”は大きく変化してしまいました。
そして、長年、社会福祉協議会で対応してきた様々な生活相談においても、その変化は表れてきています。
今号ではその相談の中でも、コロナ禍における相談が急増しました**『生活福祉資金の貸付相談』**についてお知らせします。

先行きが見えない不安

新型コロナウイルス感染症が日本中で猛威を振るい、1年半が経過しました。その間、朝日町社会福祉協議会（以下、朝日町社協）では、生活費の減少に伴う、資金の貸付申請に関する相談が多く寄せられました。

この生活資金の貸付については、富山県社会福祉協議会が実施している「生活福祉資金貸付制度」の**特例貸付**として、新型コロナウイルス感染症の影響による休業や失業等により、生活資金に困っている方を対象に、一時的な資金の貸付を行うものです。相談、貸付申請については朝日町社協を含む各市町村社会福祉協議会が対応し、富山県社会福祉協議会が貸付審査・決定、送金を行う流れとなっています。

この資金貸付の相談者に関しては、飲食店等のサービス業や自営業、外国人等の相談者が多い傾向であり、以前まで朝日町社協が対応してきた相談者と様子が違ってもいました。

※資金の貸付申請については、令和3年11月末をもって終了となる予定です。

相談者の多くは、まだまだ働き盛りであり、家族を養うための給与等の収入が減少している現状を少しでも変えようという想いを抱えていました。そして、自分の努力だけでは変えられない現状に対する不安や憤り、やるせなさも同時に抱えてもいるように感じました。

この貸付相談において、何より大切にしたことは、相談者の「想い」に耳を傾け、**『今後、どのような暮らしを望んでいるのか』**を共に考えていくスタンスです。その上で、ご家庭の収支状況、家族構成等を聴き取り、支援の手立てを考えていきました。

「自立」を目指して

この資金の貸付相談において根幹となるのは、**【相談者本人とそのご家族の自立】**という観点です。貸付相談は、生活の立て直しをスタートさせる一つのきっかけに過ぎません。

収入の減少という「困りごと」の相談を通して見えてくるのは、相談者本人も気付いていない「収入以外の課題」の存在であったりもします。

そのような生活上の課題の解決を目指し、より安心出来る暮らしを望むためには、困った時に胸の内を明かすことが出来る相談相手が必要ではないでしょうか。

朝日町社協は、**「福祉の総合相談」**として住民の皆さんの相談をお受けしておりますので、ご相談のある方はお電話・ご来所ください。お待ちしております。

福夫と協子の社協ものがたり

相談相手いますか

福夫さんと協子さんの家を覗いてみました

福夫　ばあさん、つかぬことを聞いてみるがやけど。
協子　何け、いきなり。気持ち悪いわ～。
福夫　気持ち悪いっちゃなによ。亭主に向かって。まぁええわ。あのさ、誰しも悩みをもっとると思うがやけど、そういう悩みとか不安とかって誰にでも打ち明けられんにかの～。
協子　当たり前やにか。信頼しとる人にしかそんな思いは聞かせられんちゃよ。
福夫　そうやよな～。でも、家族や友達じゃない限り、信頼出来る人っちゃおらんがじゃないか？
協子　そうかね～。逆に家族や友達とかじゃないからこそ、話せることもあるがじゃないが？
福夫　しゃ、オラにも話せんことあるって言うがか！秘密主義か、ばあさん？
協子　何言うとんがいね、子どもみたいに（笑）それだけ、人の心っちゃ単純じゃないって言うとら。
福夫　なるほどの～。けど、そういう悩みとか聞いてくれる所っちゃドコにあらやろ？オラ、知らんわ～。
協子　そういえば、お隣のさっちゃんがこの前、社会福祉協議会で悩みとか相談出来るって言うとったわ。えらい親身になって聞いてくれるがやと。
福夫　そいがか。その、何とか協議会っちゃどこにあらよ？
協子　五叉路クロスファイブっていう建物あろう？あの2階やったはずやわ。
福夫　あそこか！なら、今から行ってくるわ。
協子　待たれま！それより、何を相談に行かけ？
福夫　言えんちゃ。オラ、秘密主義やから（笑）

おしゃべりカフェを開催

コロナ禍において活動を制限されているボランティアの皆さん。「人と関わりたいが、関われない」「活動したいが、活動先に迷惑をかけてしまうんじゃ…」そんな想いでいるボランティアさんはたくさんおられます。

朝日町ボランティアセンターでは、そのようなボランティアさんの現状や想いを話し合い、今後の活動に活かすために「おしゃべりカフェ」を開催しました。

「おしゃべりカフェ」に参加されたのは、ボランティアグループやふれあい・いきいきサロンの運営ボランティアさんたち。集まれば、自然と会話も弾みます。高齢化や担い手不足を嘆きながらも、それでも続けているボランティア活動。

コロナ禍だからこそ改めて感じる**“ボランティア活動をしていて良かったと思うこと”**について、それぞれ意見を出し合いました。参加者が共通して思っておられたのは、ボランティア活動を通して**“人と人とがつながる喜びと笑顔”**でした。仲間と出会い、高め合うなかで磨いてきたボランティア活動という価値観。そんな大切な想いを胸に、これからもボランティア活動を続けていくことを確かめ合った素敵な時間でした。

～収集ボランティア活動～

ご協力ありがとうございました。

◆朝日町図書館　様　　◆岡本　仁一　様

ほか、匿名の方々からもたくさんのご寄付をいただきました。

編集後記

毎年８月に定期発行しておりました「ハートフル通信」ではありますが、第23号は諸事情により１カ月遅れでの発行となりました。関係各位の皆様にはご心配をお掛けしまして申し訳ございませんでした。

さて、今号では社会福祉協議会が担う「日常生活自立支援事業」や「相談」に関することを取り上げました。目立つことはないが、夜道を照らす月のように、困っている人々に寄り添う支援を今後も続けて参りたいと思っております。　（廣田）